

斑点米被害多発のおそれ

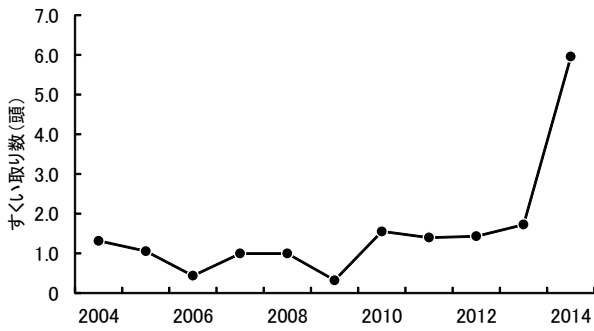
～水田内雑草があるほ場では出穂期10日後頃と同24日後頃に必ず防除～

- 1 病害虫名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）
- 2 発生作物：水稲
- 3 対象地域：秋田県全域
- 4 発生時期：早い
- 5 発生量：多い
- 6 警報発令の根拠
 - (1) 8月3～5日の巡回調査（県内100地点）において、斑点米カメムシ類のすくい取り数は平均6.0頭（平年1.1頭）、発生地点率は49%（平年35%）でいずれも高かった。これらの値は過去10年間で最も大きい（表－1、図－1、2）。
 - (2) 同調査では、63%の地点でノビエやホタルイ類等の水田内雑草が確認され、密度が高いほど斑点米カメムシ類のすくい取り数が多かった（図－3）。
 - (3) 県内6地点の予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は平年と比較してやや多く（表－2）、第1世代成虫の誘殺最盛日は早かった。
 - (4) 7月31日に仙台管区气象台から発表された気象予報によると、向こう1か月の気温は高いとされており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると予想される。
 - (5) 以上のことから、水田内における斑点米カメムシ類の発生量は更に多くなると予想され、籾への吸汁加害による斑点米被害が多発するおそれがある。
- 7 防除対策
 - (1) 出穂期10日後頃にスタークル剤又はアルバリン剤の茎葉散布剤を畦畔を含めたほ場全体に散布する。
 - (2) 水田内雑草があるほ場又は牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃に加えて同24日後頃にもキラップ剤の茎葉散布剤を散布する。
 - (3) 出穂期10日後頃の薬剤散布直後から7日後までに畦畔や農道の草刈りを行う。
 - (4) 法面や休耕田等の雑草地の草刈りは収穫2週間前まで行わない。
 - (5) 粒剤は粉剤や液剤に比べ効果が劣るため、農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合のみ使用する。
- 8 その他
 - (1) 本年の出穂期は平年より2日程度早く、全県平均で8月2日である。出穂期が8月2日の場合は、出穂期10日後頃は8月12日頃、同24日後頃は8月26日頃である。
 - (2) 農薬を散布する際には養蜂業者等と連携をとり、ミツバチ等への危害防止対策を徹底する。
 - (3) 蜂場が近接している場合は、ミツバチが水田に飛来してくることがあるため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時）の農薬散布を避け、できるだけ早朝又は夕刻に散布する。

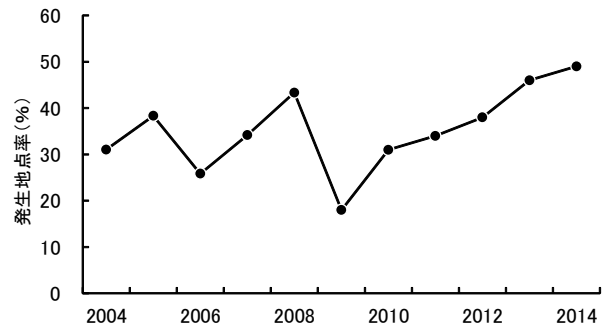
表一 水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1半旬)

	すくい取り数(頭) ¹⁾			発生地点率(%)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ		
県北部	6.3	4.9	1.2	52
県中央部	7.1	4.2	2.9	37
県南部	4.9	4.0	0.8	56
全県	6.0	4.3	1.6	49
平年	1.1	0.5	0.5	35
概評	多	多	多	多

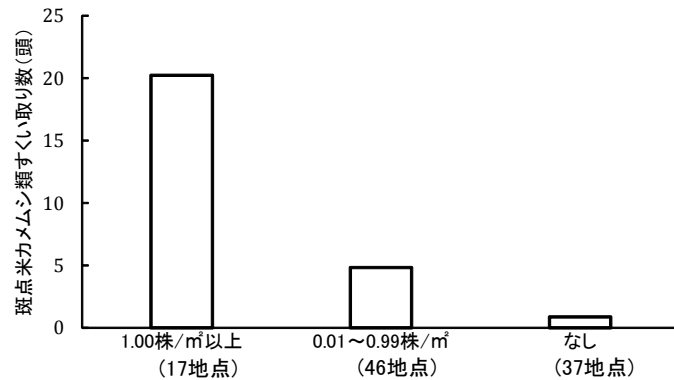
1) 水田内20回すくい取り調査



図一 水田内すくい取り数の年次推移(8月上旬)



図二 水田内発生地点率の年次推移(8月上旬)



図三 水田内雑草密度と斑点米カメムシ類のすくい取り数の関係(8月1半旬)

表二 県内6予察灯の誘殺数(7月合計)

	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	合計
2014	35.2	153.3	188.5
平年	16.7	132.9	149.6
概評	やや多	やや多	やや多

【 問合せ先 】

秋田県農林水産部 水田総合利用課 TEL 018-860-1785
 秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/nosaneng/>
<http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>